

令和4年度学校保健統計調査結果（高知県分）【概要】

1 発育状態

男女ともに身長・体重が近年横ばい傾向にあり、全国もほぼ同様の傾向となっている。

○身長

- ・男子は全年齢で全国平均を下回っており、10歳(138.3cm)では全国平均より1.4cm低く、最も差が大きい。
- ・女子は10歳を除く年齢で全国平均を下回っており、11歳(146.6cm)では全国平均より1.3cm低く、最も差が大きい。

○体重

- ・男子は12、14、16、17歳で全国平均を上回っており、17歳(63.9kg)では全国平均より1.4kg重く、最も差が大きい。
- ・女子は5、6、7、11、12、16歳を除く年齢で全国平均を上回っており、17歳(53.7kg)では全国平均より1.2kg重く、最も差が大きい。

2 肥満傾向児の出現率

男女ともにおおむね増加傾向にあり、全国も同様の傾向となっている。

- ・男子は7、9、12～14、17歳で全国平均を上回っており、12歳では全国平均より4.48ポイント高くなっている。
- ・女子は5、7歳を除く年齢で全国平均を上回っており、15歳では全国平均より3.62ポイント高くなっている。

3 健康状態

★裸眼視力1.0未満の者は、おおむね増加傾向にあり、全国も同様の傾向。
令和4年度の割合を全国平均と比較すると、小学校、中学校で下回り、高等学校では上回っている。

★むし歯（う歯）の者は、おおむね減少傾向にあり、全国も同様の傾向。
令和4年度の割合が、全ての区分で全国平均を上回っている。

○主な疾病・異常の被患率別

- ・幼稚園・小学校
「むし歯（う歯）」の者の割合が最も高く、次いで幼稚園では「歯列・咬合」、小学校では「裸眼視力1.0未満」の順となっている。
- ・中学校・高等学校
「裸眼視力1.0未満」の者の割合が最も高く、次いで「むし歯（う歯）」の順となっている。

○主な疾病・異常の被患率の対前年度比較

- ・「裸眼視力1.0未満」の者の割合は、小学校、高等学校で前年度を上回っているが、中学校では下回っている。
- ・「むし歯（う歯）」の者の割合は、全ての区分で前年度を下回っている。

○主な疾病・異常の被患率の対全国比較

- ・「裸眼視力1.0未満」の者の割合は、高等学校で全国平均を上回っているが、小学校、中学校では下回っている。
- ・「むし歯（う歯）」の者の割合は、全ての区分で全国平均を上回っている。

4 新型コロナウイルス感染症による影響

- ・令和4年度については、令和2・3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、健康診断を当該年度末までに実施（例年4月1日から6月30日に実施）することとなったため、学校保健統計調査においても調査期間が年度末まで延長された。このため、本集計結果は、成長の著しい時期において測定時期を異にしたデータを集計したものとされており、過去の数値と単純比較することはできない。

■県教育委員会のコメント

肥満傾向やむし歯（う歯）、視力低下を改善していくためには、子どもの頃からの基本的な生活習慣や運動習慣の定着をすすめていくことが重要であり、引き続き、健康を保持増進していくための食育や健康教育の充実に、知事部局や関係機関と連携を図りながら取り組んでいく。（担当課：保健体育課）